

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・多様な親子が気持ちよく利用してもらえるように引き続き当事者の声を聞いていく。 ・利用者の持つ様々な背景にも対応できるように、スタッフのスキルアップをはかる。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ) H29年度

<ひろば利用者> 26,282人(一日平均106.8人) 新規登録者 1,779人(一日平均7.2人)  
 <父親の利用> H26年度726人(月平均63人) → H29年度865人(月平均72人)  
 <妊娠期の利用> H26年度 169人(月平均14.1人) → H29年度 207人(月平均17.2人)

<H29年度振り返りアンケート(※1)結果>ポポラを利用したことのある人(129人)の内、①利用者を温かく迎え入れる雰囲気がある「そう思う」と答えた人120人(93.0%)、「そう思わない」1人(0.8%)、「どちらともいえない」8人(6.2%) / ②子どもを遊ばせやすい「そう思う」と答えた人90人(69.8%)、「そう思わない」11人(8.5%)、「どちらともいえない」27人(20.9%)、「無回答」1人(0.8%)

(※1)H29年度振り返りアンケート:「都筑区子育て支援センターポポラ アンケート2017年度」調査対象H29年12月~H30.1月の4か月、1歳6か月児健診、H30.1月~2月の3歳児健診受診対象者の保護者へ実施。対象期間の健診受診勧奨通知にアンケート調査票を同封し、健診来所時に回収。回答総数258(発送490)、回収率52.6%

1【安心・安全・心地よいひろば】

・ひろば受付前に情報コーナーで足を止めている方には、一緒に情報を探しながら来訪の目的を手繰り、ひろばへの敷居を低く感じていただけるよう、気持ちに寄り添った対応を心掛けている。  
 ・情報コーナーにミニ遊び場を設置したことで、ひろばの前室として機能しているほか、横浜子育てサポートシステムの打合せ、帰り際の相談やひろばへ入りづらい親子の居場所になることもあり、多様な目的に合わせて活用されている。  
 ・配慮が必要な子どもへの対応について、地域療育センターのソーシャルワーカーによる研修会を実施し、スタッフのスキルアップを図った。

2【多様性のあるひろば】

・妊娠期からの支援を目的に、妊婦向けのひろば見学日に合わせ母子保健コーディネーター相談日を設けている。  
 ・当事者同士のおはなし会「そうだポポラへいこう」(※2)「あつまれ~都筑のニューフェイス」(※3)「幼稚園先輩ママとの座談会」など、様々な背景を持つ親子が集う場を設け、ひろば利用のきっかけを作っている。  
 ・月に1回、ボランティア「ポポメイト」の活動日を設け、季節に合わせた仕事をひろば利用者と一緒に作り、多世代交流の場となっている。  
 ・第一土曜日を「パパの日」とし、継続することで父親同士の交流も生まれ、父親の利用も増えている。  
 ・外国籍の利用者に向け、ひろば利用時の説明資料を作成した。また、外国語でコミュニケーションをとれる利用者、スタッフの声かけつなぐことで、利用者同士の交流も生まれている。

3【ニーズ把握・親も子ども育つ場】

・子どもの年齢にあった遊びの場が欲しいとの声から、コミュニティルーム(研修室)を開放し、「元気っ子の日」(※4)を設けた。それを目的に拠点を利用する親子も増えた。  
 ・障がい児を持つ親子の交流の場が欲しいとの声から、障がいのある子ども興味に合わせて気兼ねなく利用できる場として、「ポポラへようこそ♪」(※5)の日を設けた。その子に応じた遊びができるように、スタッフを配置し、受け入れ体制を整えている。「ポポラへようこそ♪」をきっかけに、普段のひろば利用につながる親子もいる。  
 ・乳幼児期の早い段階から幼稚園選びについての相談が増えてきたことを受け、「幼稚園先輩ママとの座談会」を実施した。親同士が相談、情報交換する場となっていることに加え、乳幼児期に幼稚園選びだけに翻弄されずに、安心して過ごせるよう情報提供を行う場ともなっている。

(※2)妊婦と先輩ママの交流会

(※3)転入者が多い区の特性を踏まえた転入親子の為の集まり。区内14か所で年2回開催。

(※4)コミュニティルームを開放し、同じ位の年齢同士のおもちゃのやりとりを見守ったり、ごっこあそびなど、年齢にあった遊びの場としている。

(※5)毎月第3土曜日、発達に心配のあるお子さんや、障がいのあるお子さんも、拠点に遊びに来てほしいとの思いから、ひろばの入場人数を少なくし、「障がいのある子を育てている先輩ママとおしゃべり会」や「障がいのある子集まれ~ポポラで遊ぼう」の時間を設け、コミュニティルームを開放している。

**評価の理由(区)**

- 1 定例会等を通じ、ひろばの環境や安全面の確保及び事故等に係る報告を受け、確認及び助言を適宜行った。
- 2 妊娠期からの支援を目的に、母子保健コーディネーターが連携し拠点にて相談日を設けることができた。また、土曜日両親教室の開催について後方支援を行い、妊娠中の夫婦の来所のきっかけを提供できた。
- 3 ひろば利用児の低年齢化を受け、「元気っ子の日」をつくるにあたり、コミュニティルーム(研修室)の活用について話し合い、2、3歳児の居場所づくりを実現できた。また、ネットワークを通じて地域資源(外遊び、園庭開放など)へつないでいくというコンセプトを拠点と共有している。
- 4 ひろばの相談内容については、定例会で共有し様々な相談や対応が出来るように助言している。ひろばスタッフ会議にも出席し、顔を合わせて話を聞くことができた。また、ひろばから拾い上げた課題をもとに、小グループの集まりなどを実施しており、これに対して区が情報共有し、必要時助言できている。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・情報コーナーに設置したミニ遊び場は、多様な目的の居場所となり、コミュニティルームは「元気っ子の日」等、活用がひろがり、利用者のニーズに応える場となっている。
- ・配慮が必要な子どもについて、地域療育センターのソーシャルワーカーによる研修会を実施し、知識を深めた。
- ・母子保健コーディネーター相談日を設け、妊娠期からのひろば利用につながった。

(課題)

- ・ひろばで把握したニーズを拠点だけでなく、地域の支援に広めていくように取り組んでいく。
- ・子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されるように、居場所づくりについて工夫し検討していく必要がある。

**振り返りの視点**

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・ポポラのような様々な相談事業(ひろば、専門、グループ)について、区役所内での共有と親子への周知をさらに進め、相談事業の役割分担、連携のあり方の整理をしていく。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	B
<b>評価の理由(法人)</b>			
<p>(主なデータ)H29年度                      &lt;相談件数&gt;                      ひろば相談: 1,196件 栄養士、歯科衛生士、障がいのある子を育てている先輩ママを含むひろばスタッフなど                      専門相談: 192件 臨床心理士、言語聴覚士と障がい・外国人支援・アレルギー当事者の協力によるピア相談など</p> <p>&lt;H29年度振り返りアンケート結果&gt;ポポラのスタッフには気軽に相談できる雰囲気がありますか?にポポラを利用したことのある人(129人)中、「そう思う」107人(82.9%)、「そう思わない」1人(0.8%)、「どちらともいえない」20人(15.5%)、「無回答」1人(0.8%)</p>			
<p><b>1【気軽に相談の場】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用時に相談事業の仕組みについて丁寧な説明を行っている。</li> <li>・相談が多い内容については、情報ファイルを整理してひろばに置くことで利用者がファイルを手に取り、相談のきっかけをつくるようにした。</li> <li>・「幼稚園ママのロコミ情報」や「外国人情報」などのファイルを設置し、スタッフがよりわかりやすく利用者に話ができるようになっている。</li> </ul>			
<p><b>2【安心して相談できる場】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との信頼関係が作れるようスタッフが気持ちに寄り添った支援を心掛けている。ひろばでの様子を見守りながら、ゆっくり時間をかけて寄り添い、会話の中から相談につながるが多い。</li> <li>・専門相談員による小規模グループでの座談会を実施し、相談をより身近に感じてもらうきっかけ作りをした。「子どもの心とからだの発達」「言葉のはじまり」「アレルギーと心の関係を理解」などをテーマにした。</li> <li>・言語聴覚士の言葉の相談から発達の相談に繋がることも多い。</li> <li>・土曜日に専門相談日を設けていることで、両親での相談、父親の個別相談、家族相談が多くなった。</li> <li>・拠点の周知ができたことで、母親以外にも父親や祖父母からの相談など、多様な養育者からの相談が増えた。</li> <li>・保育・教育コンシェルジュの相談日(年10回)を設けて、ひろばで気軽に相談できる場づくりをした。</li> </ul>			
<p><b>3【相談事業の周知】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談専用チラシの配架、カレンダーに加え、ホームページ、ツイッターで予約状況をリアルタイムで伝え、周知に努めることで、相談に繋がっている。</li> <li>・相談日、相談内容、相談員のプロフィールや写真を公開し、わかりやすく伝えることで、より安心して相談を受けられる場として周知されている。</li> </ul>			
<p><b>4【関係機関との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容に応じて、利用者支援事業に繋ぎ、支援した。</li> <li>・相談を丁寧に聴き取り、必要に応じて区や横浜子育てサポートシステム、関係機関と連携して見守った。</li> <li>・地域のネットワークがあることで、地域での見守りや継続的な支援につながった。</li> </ul>			
<b>評価の理由(区)</b>			
<p>1 定例会で現状を把握し、対応等の助言を行った。</p> <p>2 プライバシーに配慮して多様な相談に対応できるよう、個人情報保護研修を行った。</p> <p>3 保育・教育コンシェルジュによる保育園情報の提供を行った。</p> <p>4 専門相談利用後のフォローが適切になされるよう、必要な助言をし地区担当へつなぐ等、後方支援を行った。今後はさらに密に連携し、拠点と役割分担等のすり合わせを進めていきたい。</p>			
<b>拠点事業としての成果と課題</b>			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろばでの相談や専門相談は、スタッフが利用者の気持ちに寄り添い、信頼関係を作ることによって、安心して相談できる場になっている。ひろばの利用など他事業から相談につながることもあり、相談の窓口が広がった。</li> </ul>			
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点での専門相談について区と連携し、各々の相談機能について理解を深め、相談機能の分担を考えていく必要がある。</li> </ul>			

## 様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・子育て世代以外の区民へポポラを周知する。 ・養育者の立場に立った情報収集、情報発信を引き続き行う。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
(主なデータ)H29年度 <つづきチルコロMAP(※6)> 2年ごとに更新 10,000部発行 <ツイッター>H24年4月スタート ツイート(発信)5,866件 フォロワー H26年度(448人)→H29年度(870人) <区両親教室の参加者への情報提供> 対象(202人)  <H29年度振り返りアンケート結果>ポポラを利用したことのある人(129人)中、「子育てに関する情報が得られやすいですか」に「そう思う」103人(79.8%)「そう思わない」3人(2.3%)、「どちらともいえない」22人(17.1%)、「無回答」1人(0.8%) ポポラを利用したことのない人(129人)が答えた活動の認知度(複数回答);都筑区の子育て情報「つづきチルコロMAP」を知っている人44人(34.1%)、ポポラのホームページ・ツイッターを知っている人17人(13.2%)、拠点広報誌「ポポラペーパー」を知っている人16人(12.4%)  (※6) 地域別に子育てに役立つ情報と地図を掲載した子育てMAP			
<b>1【情報の集約、提供】</b> ・利用者の目線に立ち、必要な情報を探しやすいようなカテゴリーに分け整理提供するとともに、探している場所で何を求めているのか、スタッフがわかるようにして、丁寧に寄り添い対応している。 ・当事者の声を集めた口コミ情報ファイルを作成し、利用者に提供している。(幼稚園口コミ情報、転入者向け口コミ情報等) ・つづきチルコロMAPを子育て支援者やこんにちは赤ちゃん訪問員に配布し、活動時の情報ツールとして活用されている。 ・区民まつり、こどもみらいフェスティバル(※7)に参加して、広く区民に子育て情報を提供し、拠点の周知をおこなっている。			
<b>2【来所困難な方への情報提供】</b> ・来所しにくい人や担い手が情報を得やすいように、広報よこはま区版で拠点事業を周知するとともに、ホームページ、ツイッターの活用、拠点広報誌(ポポラペーパー)を関係機関に送付し情報提供を行った。 ・SNSが普及した事に伴い、ホームページをモバイル対応できるように全面改訂し、拠点情報に加えて、地域のイベントや子育てサロンの情報などをタイムリーに更新している。 ・ネットワークを活かして、地域の公園遊びやサロン等へ参加し情報収集や提供を行ったことで、地域の居場所やイベントの利用につながった。			
<b>3【養育者とともに情報を発信する仕組み】</b> ・つづきチルコロMAP作成の際、養育者が「チルコロMAP隊」となり、地域の情報収集、取材などを行い、養育者が必要としている情報を発信している。			
<b>4【各地域の子育てカレンダー発行】</b> ・エリア活動(※8)のなかで、地域の子育てカレンダーを作成し、分散していた情報を地域別に一覧にまとめたことで、養育者にわかりやすいだけでなく、担い手、施設のそれぞれの事業の理解も深まり、共催事業にもつながった。  (※7)「子どもが主役の子育て」「もっと自由に外遊び」をコンセプトに区内企業、地域の方たちが協力して年1回開催するイベント。区、拠点も後援協力で参加している。 (※8)現在区内を9エリアに分け、地域ケアプラザ、主任児童委員、民生委員児童委員、子育て支援者、地区センター、地区社会福祉協議会、連合町内会等、地域の支援者と協力しエリアごとに様々な子育て支援活動を行っている。			
<b>評価の理由(区)</b>			
1 すべての赤ちゃん会及び子育て支援者会場において、拠点広報誌(ポポラペーパー)を配布することで拠点の利用につながっている。 2 定例会において、区の事業情報、サークル情報等について随時提供している。 3 保育園、幼稚園情報を拠点が入手できるよう、施設との橋渡しを行った。 4 各地域の子育てカレンダー作成の話合いに区も参加し、地域の支援者主体の情報発信がされるようサポートを行った。			



拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・公的な情報だけでなく民間の情報も整理して発信している。
- ・ホームページ、ブログ、ツイッターなどで地域のサロンやイベント情報をタイムリーに発信することで参加者が増加し、活動が広がった。
- ・ホームページなどで情報発信を続けている事で、拠点の情報集約・提供機能の認知が進み、地域から地域イベント等の情報提供がされるようになった。

(課題)

- ・紙情報を手渡ししていくことを大切にしているが、更新作業の負担が大きいことを踏まえて情報発信の仕方、伝え方の工夫を検討し続けていく必要がある。
- ・養育者の情報発信の場を増やしていく。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内にはまだ支援の不十分な地域もあるため、引き続き各地域ごとに個別に丁寧に進めていく。</li> <li>・支援の内容は現場の声を大切に聞き、状況に応じて柔軟に対応していく必要がある。</li> </ul>	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
<p>(主なデータ)H29年度                      &lt;あつまれ～都筑のニューフェイス&gt; 春秋開催24会場 参加者 計305組                      &lt;青空フェスタ(※9)&gt; 参加者500組                      &lt;子育てネットワーク会議(※10)&gt;                      年2回開催。                      参加団体:親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、子育て支援者、市立保育園、区社会福祉協議会、区地域振興課、区子ども家庭支援課、ポポラ                      &lt;子育てネットワーク交流会(※11)&gt;                      年1回 約100名参加。                      参加者:こんにちは赤ちゃん訪問員、民生委員児童委員、子育て支援者、保育園、地区センター、親と子のつどいの広場、コミュニティハウス、ログハウス、乳幼児一時預かり、地域ケアプラザ、地区社会福祉協議会、区社会福祉協議会、区地域振興課、区子ども家庭支援課、拠点                      &lt;つづきママネット講座(※12)&gt; 3回1コース 参加:16名</p> <p>(※9) 区内プレイパークと拠点が主催する外遊びの楽しさを伝えるイベント。                      (※10) 区内子育て支援関係者(約30人)が集い、区内の子育て課題を検討、意見交換をする会議。                      (※11) 区内子育て支援関係者(約100人)参加の交流会。毎年テーマを決め、活動の報告、グループワーク等を行っている。                      (※12). 地域の活動に関心をもっている当事者に声かけし、子育て当事者の声を引き出し、互いにつながりながら地域につながるきっかけ作りを提供する講座。</p>			
<b>1【ネットワーク構築と推進】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながり、区内の顔の見える関係づくりを目的にエリアごとに担当者をおき、拠点スタッフが公園遊び、子育てサロン、おまつり、カレンダー制作などの活動に参加している。</li> <li>・「子育てネットワーク交流会」では、お互いの活動を報告し、課題の共有と同時に担い手同士の活動を認め合う機会をつくり、「エリアの活動」の活性化に努めている。</li> <li>・「子育てネットワーク会議」では、活動状況を踏まえながら、区のネットワークのあり方について検討をしたり、区全体の課題共有、区全体での取り組みを実施している。</li> <li>・年1回拠点スタッフと主任児童委員の交流会を設け、互いの活動を理解し、地域の子育て支援活動を活性化している。</li> </ul>			
<b>2【ネットワークを活かした利用者の地域へのつなぎ】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークを活かし、拠点利用者を丁寧に地域につなぎ、地域の支援者と共に養育者に寄り添うことができている。</li> <li>・転入者が多い区の特性を考慮し、地域ケアプラザ、子育てサロン、親と子のつどいの広場等と協力し、「あつまれ～都筑のニューフェイス」を区内24会場で開催。</li> <li>・子育て当事者を対象に「つづきママネット講座」を開催し、講座のなかで地域の施設や支援者を紹介。養育者と地域とのつながりのきっかけ作りとなった。</li> </ul>			
<b>評価の理由(区)</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全体会の位置づけであるネットワーク会議の開催回数の見直しを行い、エリアごとの活動に出向くことに重点をおいたことで地域の課題把握に努めていくことが出来た。</li> <li>2 「子育てネットワーク交流会」を継続し、支援者が顔を合わせ、互いの活動を認め合い確認することができ、参加者の高い満足度を得ている。</li> <li>3 地域福祉保健計画の活動発表会において、エリアごとの子育て支援活動紹介パネルを作成展示し、活動について広く区民に周知を図り、理解が深まった。</li> <li>4 「つづきママネット講座」を拠点と協働で実施し、参加者同士がつながるとともに、地域の支援者(子育て支援者、地域の区民利用施設関係者、主任児童委員や子育てサロン等)に参加を呼びかけ、母たちとのつながりを持つきっかけづくりができた。</li> <li>5 地域での課題を踏まえて、区としての地域の子育て支援の在り方や人材育成の在り方について、ネットワーク会議で議論され、共有されている状況を作り出していく必要がある。</li> </ol>			

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

・「子育てネットワーク交流会」を継続して開催していることなどから、区内各エリアのネットワークが活性化し、新しい活動が生まれ、既存の活動も広がってきた。

(課題)

・エリアごとの活動等にも地域差があるため、地域の方に寄り添って一緒に進めていく必要がある。  
・今後の区全体でのネットワークのあり方について検討していく必要がある。(ネットワーク会議の持ち方、エリア分けの空白部分への対応等)

**振り返りの視点**

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。



5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・子育て支援に関心のある人たちに地域で活動する場を提供しながら仕組みづくりを考えていく。 ・子育て支援者に共通する課題を解決するための研修を実施していく。 ・子育て世代以外の区民に子育ての現状や子育て支援について引き続き知ってもらう機会を増やす。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
<p>(主なデータ)H29年度                      &lt;チルコロウィーク(※13)&gt;12日間、13イベント 参加者 計125組279名                      &lt;親子サークル交流会(※14)&gt; 年2回                      &lt;ボランティア&gt;ポポメイト活動件数203件 学生受け入れ件数27件                      &lt;土曜両親教室&gt;区役所2回(72組142名) 拠点4回(64組127名)                      &lt;母子保健コーディネーターによる拠点での妊婦相談&gt; 4回実施 計14名(3~5名/日参加)</p> <p>(※13) 地域の子育てに関わる人たちが知り合うためのきっかけ作りとして行うイベントウィーク。子育てに関係するイベントや講座、サークル活動紹介などを行う。                      (※14) サークル支援の一環として、区内の親子、親子サークル団体に向けた情報交換を交えた交流会。講演会等も行う。</p>			
<p><b>1【担い手を支える】</b>                      ・「子育てネットワーク交流会」を毎年継続して開催し、支援者同士の情報共有と交流の場を設け、区内各エリアでの活動のさらなる活性化につなげた。                      ・「外遊び連絡会(※15)」を開催し、区内各エリアでの外遊びの活性化につなげた。                      ・「こんにちは赤ちゃん訪問員の拠点見学日」を設けて、拠点での情報提供を行うことにより「こんにちは赤ちゃん訪問員」への活動支援につながった。                      ・エリアでの活動を地域の担い手と共に行ってきたことにより、支援に関する相談を受け、一緒に考える関係性ができた。</p>			
<p><b>2【養育者を支える】</b>                      ・「親子サークル交流会」を年2回開催し、サークル運営の相談、活動支援を行った。サークル向け情報ファイルの更新を行い、年間を通して情報提供を行った。                      ・「つづきママネット講座」を区と一緒に開催。養育者の声を引き出し、養育者同士のネットワーク作り、地域とつながる場を提供した。                      ・「幼稚園先輩ママとの座談会」「そうだポポラへいこう」等、ひろば利用者に先輩ママとして参加してもらい、養育者の知りたい情報を届けてもらうとともに、担い手としての機会をつくった。</p>			
<p><b>3【子育てに優しい地域作り】</b>                      ・ボランティア「ポポメイト」による季節のイベントを開催し、利用者との多世代交流の機会をつくった。                      ・「あつまれ～都筑のニューフェイス」を区内24会場で開催。地域の居場所や支援者とつながる場を設けた。                      ・「チルコロウィーク」では、養育者に区内での子育てに関わる人との出会いの場を提供し、地域の子育て支援活動につなげることができた。</p>			
<p><b>4【次世代育成】</b>                      ・年間を通して学生ボランティアを広く受け入れ、子育てについて体験、学べる機会を提供した。                      ・区役所での両親教室、拠点での土曜両親教室を通して、子育てについての情報提供、学び合いの場をつくった。                      ・「妊婦さん向け拠点見学日」「そうだポポラへいこう」「マタニティさんの赤ちゃんとの生活プチ体験会(※16)」を開催し、妊娠期の方と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会をつくった。</p> <p>(※15) 区内の外遊び活動の関係者による情報交換会や講演会を実施。区と拠点が事務局となり年3回開催。                      (※16) 妊娠期の方に向け、おむつ替えや沐浴等出産後の赤ちゃんとの生活を体験してもらう会。区保健師、母子保健コーディネーターが拠点に来所して開催。横浜子育てパートナー、拠点利用者の先輩ママと情報交換、質問ができる。</p>			

**評価の理由(区)**

- 1 「親子サークル交流会」、「子育てネットワーク交流会」、「外遊び連絡会」等を通じた学びの場を提供したことにより、エリアネットワークおよびエリアごとの活動が増えている。
- 2 地域の活動に関心をもっている当事者に声かけし、「つづきママネット講座」を開催した。これを通じて人材発掘と育成に取り組み、地域の子育て支援活動の情報提供や、実際に支援者の参加を得て、つながるきっかけを提供した。
- 3 「親子サークル交流会」を年2回開催するとともに、個別に各サークルに対する助言、相談を随時行った。
- 4 赤ちゃん会において、保健師、子育て支援者がグループ活動化への啓発と支援を行った。
- 5 広報よこはま区版において、子育て支援活動を紹介し、その必要性を周知した。また地域福祉保健計画の活動発表会を通じてパネル展示を行い、啓発を行った。
- 6 拠点で中学生に職業体験の機会として子育て支援を体験する場を提供した。
- 7 子育て世代包括支援センターモデル事業を開始し、母子保健コーディネーターによる拠点での妊婦相談を実施した(4回)。また、平日の両親教室だけでなく、拠点においても土曜日に両親教室を実施し、妊娠期から子育てについて考え学べる場とした。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・子育て当事者に先輩ママとして経験談を話す場を設け、他の当事者の役にたつという当事者自身の気づきにつながった。また経験談を聞いた方が先輩ママとなってくれる循環ができています。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問員に拠点の周知を丁寧に行ったことにより、実際に拠点を見学に来られるなど拠点の理解が進み、訪問時により具体的に拠点のことを伝えていただけるなど支援者としての活動の幅が広がっている。
- ・拠点スタッフが地域に足を運んで一緒に活動を行うことで、拠点の地域活動支援機能が認知され、地域の担い手を支えている。

(課題)

- ・新たな担い手育成のためには時間が必要であり、活動に参加される方の意思をくみ取りながら継続して寄り添っていく。
- ・子育て支援に関心のあるより多くの方が活動に参加するきっかけづくりをどのように進めていくのか検討が必要である。

**振り返りの視点**

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・出張入会説明会の回数や実施箇所を増やし、広く区民に周知していく。 ・個人情報の取り扱いについて、継続的な注意喚起や研修等に取り組んでいく。	B	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		B	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		B	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
(主なデータ)H29年度( )内H26年度 <会員数> 全会員 741人(676人) (内訳 利用会員 548人(493人) 提供会員 140人(134人) 両方会員 53人(49人)) <活動状況>年間件数 3,716件(2,636件) 年間コーディネート件数 199件(180件) <入会説明会開催>通常の説明会 28回(24回) 出張入会説明会 12回(4回) 個別入会説明会 26回(32回) <H29振り返りアンケート結果> ポポラを利用したことのある人(129人)の内、横浜子育てサポートシステムに会員登録している人19人(14.7%)、知っているが会員登録していない人82人(63.6%)、知らない人28人(21.7%) ポポラを利用したことのない人(129人)の内、横浜子育てサポートシステムを知っている人21人(16.3%)			
<b>1【子育てサポートシステムの周知】</b> ・事業をよりわかりやすく伝えるために横浜子育てサポートシステムの概要と利用の様子をまとめたファイルを作り、ひろばに設置した。 ・ひろば内で「おためし預かり」(※17)のチラシを設置し、未登録の利用者の会員登録につながった。 ・ネットワークを通じて区内公共施設、子育て支援者会場、地域のサロンなど多方面へ呼びかけ積極的に周知したほか、区内9か所出張入会説明会も開催した。 ・親子のつどいの広場のスタッフに利用者へ横浜子育てサポートシステムのしくみを伝えてもらうために、サポートの様子をイラストにした資料を渡し、周知の協力をお願いした。 ・子育て支援者、こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会に出席し、区の子育ての現状を共有し、横浜子育てサポートシステムのしくみについて伝え、周知の協力をお願いした。また、提供会員を増やすための協力もお願いした。 ・区役所主催の「小1の壁」(小学校入学前準備講座)で周知を行い希望者には個別説明で対応した。			
<b>2【活動の理解】</b> ・会員希望者へ地域の支え合いの大切さを伝え、さらに活動・利用への理解を深めるために、入会説明会の資料をパワーポイントにして整理した。説明内容がわかりやすくなり時間も効率的に使えるようになったので、説明会も活性化し参加者から具体的な質問が増えた。また、コーディネーターのスキルアップにもつながり、活動について拠点内でも共有することでスタッフの理解も深まった。 ・拠点で行った主任児童委員との交流会で、主任児童委員の活動エリア別の会員数データを用い、横浜子育てサポートシステムの理解を深めていただくとともに、会員数を増やすための協力をお願いした。			
<b>3【活動継続の支援】</b> ・利用をしたことのない会員に、安心してリフレッシュなどで気軽に利用するきっかけとして、ひろばで「おためし預かり」を定期的に開催し、提供・両方会員には活動の機会も提供した。 ・普段の活動の他に、提供・両方会員には、予定者研修会や入会説明会などで、子どもを預かる機会を提供して、意識向上につなげた。			
<b>4【他機関との連携と支援】</b> ・区役所、地域療育センター等と連携し、必要に応じた預かりや緊急の対応も行った。 ・横浜子育てサポートシステムだけでは難しい依頼については一時預かり事業や児童家庭支援センターと連携し、親子に必要な社会資源につなぐことができた。			
(※17) 登録後、利用のない会員に向けた、子どもを預けることへの不安を緩和し活動を促進するための、拠点内のひろばにおける提供(両方)会員による預かり。			

**評価の理由(区)**

- 1 乳幼児健診時、母子健康手帳交付時、赤ちゃん会、子育て支援者会場、両親教室などでの事業の紹介を行っている。また、「小1の壁」(小学校入学前準備講座)においても紹介、説明を行っている。事業紹介にとどまらず、子どもを預け息抜きすることや地域に協力者を作るものの有用性を含め、伝えるようにしている。
- 2 こんにちは赤ちゃん訪問員、子育て支援者向けに、事業の情報提供を行い、理解を深めてもらった。
- 3 小中学校校長会を通じて、事業周知、チラシの配布を行った。
- 4 配慮の必要な方について必要に応じてサポート活動の支援や対応方法について、定例会を通じて一緒に考えると共に、各地区担当保健師やソーシャルワーカーとも密に連携した。
- 5 拠点に対し、個人情報保護にかかる研修を実施している(年1回)。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・入会説明会の資料をパワーポイントにして整理した。説明会の活性化につながり、コーディネーターのスキル向上にもつながった。
- ・区や利用者支援事業と連携して、民生委員児童委員、主任児童委員、親と子のつどいの広場、子育て支援者、こんにちは赤ちゃん訪問員等、地域の子育ての支援に関わる方々に横浜子育てサポートシステムの周知と活動の理解を深める機会をもてた。

(課題)

- ・データから、入会説明会から登録につながる割合が少ないことがわかったため、参加者が登録につながるよう工夫が必要である。
- ・横浜子育てサポートシステムだけでは支援できないことが増えてきたが、それに代わる社会資源が不足していると感じることが多い。
- ・事業の主旨である「地域のささえあい」を超えた利用目的の場合、提供会員の理解を得られにくいこともある。より一層、「地域のささえあい」であることを周知し、理解を深めていきたい。
- ・提供会員と利用会員数に地域差があり、利用や活動を進めていく上での課題となっている。

**振り返りの視点**

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。



7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	自己評価 (A~D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民に認知されている。	B	B
②個別相談に応じ、適した選択肢の提示や養育者主体の選択の支援、必要に応じた支援窓口等の案内や仲介を行っている。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)H29年度

個別相談 (318件) 地域連携 (181件)

<イベント・事業参加> ・子育てネットワーク交流会・あつまれ都筑のニューフェイス・ほいくえん広場・両親教室・土曜両親教室・横浜市幼稚園協会都筑支部子育てフェスタ・青空フェスタ・こどもみらいフェスティバル・都筑区民まつり等

<会議 定例会等> ・北部地域療育センター情報交換会・主任児童委員交流会・民生委員児童委員協議会・主任児童委員定例会・こんには赤ちゃん訪問員定例会・外遊び連絡会・子育てネットワーク会議・保育園園長会・子育て支援者定例会・児童家庭支援センター・児童発達支援事業所等

<H29年度振り返りアンケート結果> ポポラを利用したことのある人(129人)の内、「子育てパートナー」がポポラに知っているか→[相談したことがある10人(7.8%) + 知っているが相談したことはない56人(43.4%) = 66人(51.2%)], 知らない62人(48.1%)

1【利用者支援事業の周知】

- ・広報よこはま区版、拠点広報誌(ポポラペーパー)、ホームページ、ツイッター等を用いて区民に周知を行った。
- ・新事業として実施するためには、改めて「拠点が身近に相談できる場」であることを地域の支援者に説明する必要性を感じ、拠点の様子を写真入りで説明したパウチ資料を作成した。
- ・横浜子育てパートナーが地域の支援者会議等に出向き、民生委員児童委員、主任児童委員、こんには赤ちゃん訪問員、保育園園長、幼稚園園長にパウチ資料を手渡し、拠点の周知活動に利用してもらえよう説明を行っている。
- ・拠点利用のない親子に周知するためには、生後4カ月までの赤ちゃんがいる家庭を全て訪問するこんには赤ちゃん訪問員に「拠点が産後いつでも相談できる場」と実感してもらおう必要性を感じ、こんには赤ちゃん訪問員定例会への継続参加、パウチ資料の配布を行った。
- ・「こんには赤ちゃん訪問員の拠点見学日」を設け実際に拠点の雰囲気を感じてもらい周知活動につなげた。(6回、計24人参加)
- ・スタッフ全員で利用者支援事業の理解を深める機会を設け、ひろば新規利用者への説明の際に、横浜子育てパートナーのチラシを手渡し丁寧に事業案内を行った。

2【寄り添った対応】

- ・相談する窓口が明確になり、母親以外にも、父親、遠方の祖父母など様々な子育て家庭からの相談が寄せられた。
- ・利用者に寄り添いながら、子どもを中心に状況や背景を見極めて、必要に応じて、利用者のニーズにあわせ関係機関につなげた。(横浜子育てサポートシステム、乳幼児一時預かり、親と子のつどいの広場、地域のサロン等)
- ・利用者に寄り添い話を聴くことで、ひろばの継続利用につながり、利用者自身が得た貴重な情報をフィードバックしてくれる場ともなっている。改めて、利用者に寄り添う場があることの必要性を再確認することができた。
- ・すべてのスタッフが、利用者に寄り添い対応できるように、利用者支援事業の勉強会を定期的に設けた。

3【関係機関との地域連携】

- ・地域の子育て支援の枠組みの中に横浜子育てパートナーが位置づけられる為に、各地域の子育てサロン等に参加し信頼関係の基盤づくりを行なったことで、他機関との連携も深まり親子の見守りにつながった。
- ・個別支援では、限られた社会資源のなかでの対応の難しさを実感し、つなぎ先の不足に気づいた。

4【母子保健コーディネーターと保育・教育コンシェルジュとの連携】

- ・妊娠期からの支援を目的に、妊婦向けのひろば見学日に合せ、母子保健コーディネーターと気軽に相談できる時間帯を設定し、母子保健コーディネーターと横浜子育てパートナーが連携しながら切れ目ない支援に取り組んでいる。
- ・拠点で開催する「保育・教育コンシェルジュの相談日」の際、横浜子育てパートナーと保育・教育コンシェルジュが連携することで、より効果的に利用者のニーズに応えることができた。



## 様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 評価の理由(区)

- 1 広報よこはま区版への掲載のほか、こんにちは赤ちゃん訪問員・子育て支援者・主任児童委員・民生委員児童委員協議会の定例会に横浜子育てパートナーが参加し事業説明を行えるよう調整した。
- 2 拠点広報誌(ポポラペーパー)を赤ちゃん会や子育て支援者会場等様々な場面で配布し、周知を行った。
- 3 定例会や必要時に相談内容の報告を受け、支援方針や役割確認など相談・助言を行った。
- 4 地区担当保健師とのカンファレンスを行い、区と横浜子育てパートナーの役割の整理を行った。
- 5 横浜子育てパートナーが地域の社会資源と円滑な連携が図れるように、見学など区が関係機関と連絡調整を行った。

### 拠点事業としての成果と課題

#### (成果)

- ・事業がスタートしたことで、実際の事例を通して地域の支援者や関係機関と具体的な支援を共に考え、親子に必要な社会資源につなぐことができた。
- ・地域に出向き事業の周知を行い、信頼関係の基盤づくりを行ったことで、新たなつながりも生まれ、既存のネットワークも強化された。
- ・相談窓口が明確になり、子育て家庭から様々な相談が寄せられた。また利用者に寄り添い丁寧に対応することで、ひろばの継続利用につながり、利用者からも情報が得られた。

#### (課題)

- ・相談内容が幅広く複雑となったため、多様な情報収集が必要で、提供するスタッフのスキルアップも必要となり、継続して、情報収集やスタッフ研修を実施していく必要がある。

ア 利用者支援事業を幅広く区民に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 常に最新の情報を収集し、提供しやすく整理しているか。

エ どのような相談に対しても、相手に寄り添い傾聴し、養育者の主体性を尊重した相談対応を行っているか。

オ 関係機関等への案内・仲介する場合、先方へ事前に連絡するなど、円滑かつ確実に利用できるような支援をしているか。

カ 関係機関へ案内・仲介した後も、役割分担に応じて継続的な関わりをもっているか。

キ 相談の対応状況や支援策の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源(インフォーマルを含む)との間で、利用者支援に関連する情報の共有や関係性の強化を図っているか。

ケ 専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に案内・仲介する等、適切な対応を行っているか。

コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。